

民泊の思い出

会長 真楽嘉晴

北地区民泊協力は、昨年11月15日、市内でも最後の結成で出発しました。

まずは、選手の宿泊を受け入れる家庭を確保しなければなりません。「地域内の全ての家庭に宿泊のお願いが届くようにすること」、「自治会長は個別に受け入れができると思われる家庭に伺い、直接お願いする。」ということを決め、あわせて、調理班、美化班、歓迎班など役割を明らかにして動き始めました。

自治会の活動は、年度毎に役員が変わることもあり、活動の引継ぎ、継続性を確保する点が課題でした。

徳島県チームを10月1日に出迎え、歓迎会。2日の初戦で、残念ながら勝利できず、夜には送別会を行い、3日の朝には見送り、と短時間のあわただしい交流ではありましたが、送別会で阿波踊りを教えてもらえたことなど、感激の出会いでした。

せめて、1回戦でも勝利できればと、心残りはありましたが、民泊協力の役割は参加いただいた皆さん方のご協力で果たすことができたものと思います。ありがとうございました。



民泊の思い出

副会長(歓迎班) 藤井実芳

9月30日、会場である保健センターで北地区自治会長と支援者の皆さん32名で歓迎装飾の準備が完了しました。

10月1日、徳島県選手団が15時30分に到着。民泊家庭、調理班、各自治会長70人を出迎え、一旦民泊家庭に帰り、19時から歓迎会を始めました。土田氏の進行で始まり、真楽会長のユニークな歓迎あいさつ、徳島県チームの監督・選手の紹介があり、ジュースで乾杯。アトラクションでは永田さんグループ10名によるハーモニカ演奏、仲良しグループ20名による銭太鼓音頭の演奏をしていただき、選手の皆様にとっても喜んでもらうことができました。1時間の歓迎会の最後には、選手の皆様への激励の意味を込めて、頑張ろう三唱で締めくくりました。

10月2日、試合会場には100名の応援団で参加しましたが、残念ながら、1回戦で敗退。夜は19時から送別会を始めました。会長あいさつの後、監督さんから試合結果を聞き、ビールで乾杯し、70人の参加者で大騒ぎ、笑い声で、楽しいひとときを過ごすことができました。最後に徳島県の阿波踊りを選手と民泊協力がいっしょになって踊り、あっという間に2時間が過ぎました。

10月3日、9時に集まり、見送りをしましたが、涙々でなかなか別れづらく、出発は10時30分に。国体には多くの時間と労力を注ぎましたが、忘れられない思い出と多くの感動をいただきました。



民泊を引き受けて

民泊家庭 清木賢人

昨年の秋、町内会の会合で国体での民泊受入の話があり、引き受けることとした。

9月には徳島県チームの受入れと民泊される選手も決まり、インターネットでチームや選手のことを調べ、来松を心待ちにしていた。

10月1日にチームの歓迎会、翌日には、岡山県との試合があり、家族で応援に行った。試合は惜敗し、初戦敗退となったが、試合における選手の歓迎会のときとは打って変わった俊敏な動きと闘志あふれる姿を目の当たりにし、さすが、国体出場チームだと思った。

試合当日の夜、選手への慰労会と送別会が行われ、和気藹々の雰囲気の中で、いっしょに阿波踊りを踊り、交流を深めることができた。

翌日、選手の見送りには、近所の人にも来て別れを惜しんだ。夜に選手からお礼の電話があり、数日後にはお礼の手紙も届き、大変感激した。

今回、貴重な体験をすることができ、本当に民泊を引き受けてよかったと思う。

民泊を終えて

山本達成・香

48年ぶりに開催された山口国体にかかわることができ、本当にありがたく思っています。

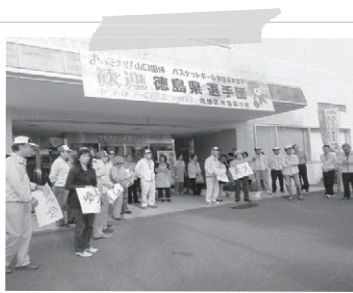
私たちの子ども2人が今までもこれからも周りの方々にお世話になり、成長させていただいたことに対する感謝の気持ちを何かに恩返しすることができたらの思いから、自治会の回覧で民泊のことを知り、申込させていただきました。日が近づくにつれ、不安もありましたが、北地区民泊協力会の皆様のご指導のもと楽しく終えることができました。

徳島県チームの方とは、2泊3日の短い時間ではありましたが、歓迎会でのなれない恥ずかしさ、北地区一丸となった初めてのバスケットボールの試合の応援、送別会での選手の皆さんと踊った阿波踊り、お見送りのときの寂しさなど忘れられない思い出となりました。我が家に民泊されたお二人のメールには感謝の気持ちが綴られており、再会を約束し、うれしく思いました。

今後は、この貴重な思い出と感動を我が子に伝えていき、次の山口国体にかかわってみたいと願うばかりです。

本当に関係者の皆様には、無事終えられたことに感謝申し上げ、こうして出会えたご縁をこれからも大切にしていこうと思います。

合掌



民泊の思い出

民泊家庭 宮田二美

民泊を引き受けたものの、打合せの際の留意事項や24項目にも及ぶ衛生自主管理など、はたして、選手に喜んでもらえるのだろうか、不安だった。あと7日、あと3日と迫り、自分のことは後回し。民泊のため家の中はもちろんのこと周辺美化もあり、気が焦る日々だった。

10月1日、颯爽と歩いてきたあの若々しい選手団一行を迎えた印象は今も胸に焼きついている。明朗で気さくな沙耶香さんと理恵さんに元気をもらい、ハッスルしたものだ。

「おばあちゃん風邪をひかないで、、、。」と慕われ、孫が2人増えたような楽しい2晩だった。

バスケは、10年以上も孫が励んできた競技で、孫が全国大会や中国大会に出場したときの写真を見ながら、興味深く「うん、分かる。すごい。」と笑顔で耳を傾けてくれた。

試合は必死で応援したが、残念ながら1回戦で負けてしまった。来年の国体で頑張ることを約束した。

送別会では、全員で、和気藹々の中、阿波踊りを踊って、再会を願い、別れを惜しんだ。



山口国体期間中は大変お世話になりました。歓迎会で工夫を凝らした数々の催しに感激し、地域の方と楽しく交流したこと、送別会で阿波踊りを照れながら踊ったことが昨日のここのように思い出されます。

各民泊家庭では家族のように接していただき、万全の態勢で試合に臨むことができました。選手は先日も民泊家庭の方との思い出を笑顔で語っていました。温かな雰囲気を作ってくださったことに本当に感謝しています。

開催前からの準備、早朝の食事準備、民泊家庭の準備、その他私たちが気付かない点にまでお心遣いをしていただきました。このような北地区の方々への心のこもった数々のおもてなしにより、人と人とのつながりの温かさや、大切さを実感しました。

この出会いは私たちの宝物となりました。

いつの日か山口の家に帰れることを楽しみにしています。その時はまたよろしくお願いします。

本当にありがとうございました。

徳島県バスケットボール成年女子

マネージャー 寺坂明子

